

第3学年 社会科学学習指導案

活動日 平成14年2月16日
 授業者 小島 恵子
 活動場所 3年2組教室(校舎3階東)

1. 単元名 「むかしをしらべる」 (全9時間)

2. 単元について

本単元でのむかしとは、地域の高齢者が子どもだった頃や現在も残っている昔の道具が使われていた頃をいう。道具については、地域の「ふるさと資料館」にあるものや児童が持ち寄った道具を使用する。また本単元では、その当時の様子を昔の道具や高齢者の話をもとにして調べ、当時の人々の暮らしの様子、知恵や工夫が分かることをねらいとしている。

児童は、昔の遊びについては生活科で学習し、体験している。また、昔の道具について地域の「ふるさと資料館」や自分の家に残っているものを見たことのある児童は、学級の半数ほどいるが「何に使うものか分からない」児童が大半で興味・関心は低い。

そこで、本単元では現在も残っている昔の道具を見学するだけでなく実際に使ってみる活動を大切にしたい。そして、自分で使ってみることにより昔の人々の様子や知恵・工夫を考え、仲間と交流することで自分の考えを確かなものにしたい。

3. 願う子どもの姿

- ・昔の道具を使ってみたり、資料館を見学したりして分かったことを図・絵・文などでまとめることができる。
- ・昔の道具の使い方を知り、人々の暮らしの変化や当時の人々の暮らしの知恵が分かる。

4. 研究内容との関わり

研究内容 に関わって(基礎・基本を確立するための、情報教育カリキュラムにのっとった単元指導計画の在り方)

資料館の見学にはデジタルカメラを活用する。調べたことを文・図・写真を使って新聞作りで表現させたい。そのときには、自分で撮ったりインターネットで取り込んだりした写真を活用させたい。

研究内容 に関わって(基礎・基本の力をつける学習活動の在り方)

社会科の「調べて考える力」を育てるため、体験活動を取り入れる。実際に道具を使う体験学習により、昔の人々の様子や知恵・工夫を考え、仲間と交流することで自分の考えを確かなものにする学習活動を大切にしたい。

研究内容 に関わって(基礎・基本の定着を図る自己評価の在り方)

課題に対する自分の考えをノートに書き、それをもとにして話し合い、最後にもう一度自分の考えをノートに書くことで、自分の考えを振り返らせたい。

5. 単元指導計画

	ねらい	主な学習活動	自ら学ぶ姿の育成
第1次	1・昔のくらしの道具やそのころの暮らしの様子に関心を持ち、調べるための学習計画を立てる。	・集めた古い物を見て、気づいたことを話し合う。 ・古い道具調べの計画を立てる。	・昔の暮らしの道具に関心を持ち、学習の計画を立てることができる。
第2次	3・ふるさと資料館を見学したり、聞き取り調査をしたりして、古い道具について調べる。	・ふるさと資料館を訪れ、古い道具の使い方やそのころの暮らしの様子について見学したり、おじいさんやおばあさんに聞いたりして調べる。	・昔の暮らしの道具に関心を持ち、進んで見学や調査をして調べることができる。
第3次	6時・昔の道具を実際に使ってみて分かったことをもとに、昔の人々の暮らしの様子や知恵・工夫を調べる。	・火鉢や七輪を観察したり、実際に炭を入れて道具として使ったりする。 ・今の道具(電気炬燵、ガスレンジ)と比べ、人々の生活の変化を考える。	・昔の暮らしの知恵や人々の暮らしの変化をとらえることができる。
第4次	8・昔の暮らしの道具やそれを使っていたころの暮らしについて調べたことや考えたことをまとめる。	・昔の暮らしの道具やそのころの暮らしについて調べたことや考えたこと、分かったことをまとめる。	・調べたことを年表や文や絵などで表現することができる。

6. 本時の目標 (7 / 9)

炭を使った道具は、今の道具と違って、燃料だけでなく暖房にも活用されていたことが分かり、昔の人々の暮らしの工夫に気づくことができる。

7. 本時の評価規準

思考判断	昔の道具（火鉢・七輪）と今の道具（ストーブ・ガスレンジ）を比べることで、昔の人々が、道具を大切にし、いろいろ使い方を工夫していたことが分かる。
------	---

8. 本時の展開

段階	学 習 活 動	研究に関わって 資料 評価 支援
つ か む	<p>1. 前時に使った道具について、気づいたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ やけどしそうになった。 ・ 少ししか暖まらない。 ・ 炭で魚やもちがおいしく焼ける。 <p>今は、どんな道具になっているか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今はストーブやレンジになっている。 ・ 今は電気やガスがあるけど、昔は炭しかなかった。 <p>2. 課題が分かる。</p>	<p>火鉢・七輪</p> <p>今はどんな道具になっているか考えさせる。</p>
ふ か め る	<p>3. 自分の考えを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 炭を使ってもちを焼いたり、手を暖めたりしていたので、火鉢は調理にも暖房にも使える。 ・ 火鉢は灰をかぶせていくと火力が下がって長持ちする。炭を足すと熱くなって、火の調節ができる。 ・ 炭で焼くとガスよりおいしく焼ける。 	<p>今の道具に置き換えてノートに自分の考えを書くことができたか。</p> <p>火鉢や七輪を使っているビデオなどを見るように勧める。</p>
ま と め る	<p>4. 火鉢を使っていたころの暮らしの話を聞く。</p> <p>5. 学習のまとめをする。</p>	<p>火力の調節をするために灰や消し壺などの工夫をしていた話など。</p> <p>初めに書いた自分の考えと比べて、深まりや広がりのある内容が書けたか。</p>